

## 2017年度 産業研究所

愛媛県松山市まちづくりプロジェクト in 大阪府堺市

参加学生 報告書



関西学院大学 産業研究所

## ■プロジェクトの概要・目的

産業研究所が2017年4月に4名を派遣した、「愛媛県松山まちづくりプロジェクト (in 大阪府堺市)」を、2017年10月に開催しました。

松山市では、古くから本土との結節点として栄えた「三津浜地区」を活性化するために、三津浜地区ブランド化プロジェクトを進行させており、中でも、名物である「三津浜焼き」を通じた三津浜地区のPRに力をいれています。

地域の課題である、①三津浜ブランドを確立すること、②集客イベントを行うこと、を目的に、地域資源である三津浜焼きを活用した「こなもんサミット」の開催をはじめ、地域と学生が連携し、新しい地域のブランドを作っていこうと様々な企画を実施しています。街のみならず堺本店で開催される、大起水産主催の“愛媛県フェア”へ「三津浜焼き」が出演することとなり、その運営補助を通して、三津浜地区ブランド化プロジェクトのお手伝いをするというプロジェクトです。

## ■活動内容（当初予定）

### ①「大起水産」や「平成船手組」へのヒアリングとレポーティング

三津浜地区ブランド化プロジェクトを牽引されている、三津浜地域の住民団体「平成船手組」の方々に対してヒアリングを実施し、現状の課題、今後のあるべき姿などを模索します。

### ②“愛媛うまいもんフェア”におけるボランティアサポート

「愛媛うまいもんフェア」とは…

大阪府堺市の「大起水産」が開催する愛媛県産品を集めた物産展です。プロジェクト参加者は、ボランティアスタッフとして、「愛媛うまいもんフェア」および出展している「三津浜焼き」のPRをサポートします。

## ■日時

日時：2017年10月21日（土）

※22日は台風接近のため中止

事前説明会：10月19日（木）12：50－13：50 西宮上ヶ原キャンパス池内記念館

## ■参加者

文学部1名（2年生）

法学部1名（2年生）

国際学部1名（4年生）

教育学部1名（4年生）

## ■参加学生の目標（各自が設定した参加当初の目標）

- ・自分の視野を広げること 教師になるにむけて有益な経験とすること
- ・地元愛が強い大阪で、他の町の良さを知ってもらう
- ・私は今回、少しでも自分の行動が松山市のPRに繋がること、そしてそのPRをするためにどのような

考え、動きが必要となるかということをも自分自身になにか少しでも学ぶこと

- ・①三津浜焼きへの理解を深めできるだけ多くの方に認知してもらうこと
- ②地域活性化の「内側」にいる当事者にとって、地方創生とは何なのかについて知ること

## ■実施内容（学生の報告書より）

### <10月21日（1日目）>

- ・お好み焼き販売のボランティア 懇親会によるヒアリング
- ・三津浜焼き販売・体験
- ・松山市ソウルフード「三津浜焼き」の販売、PR活動
- ・三津浜焼きの紹介・宣伝、調理の手伝い、平成船手組様などからのヒアリング懇親会

### <10月22日（2日目）>

- ・台風のため中止

## ■参加学生がプロジェクトを通して学んだこと

- ・ボランティアに伺うと、みなさん前回参加した私のことを覚えていてくださって、すぐにまたたくさんお話することができました。就職に対するエールをいただいたり、仕事の話などたくさんのお話を聞かせていただいたり、これから長い人生の励みになりました。時には真面目な話を、時にはふざけ合いながら、たった1日間でしたが、会話の中で改めて人と人のつながりの素晴らしさを感じることができました。街づくりに関しては、来年から私もある自治体の構成員として、社会人がスタートし、人づくりという立場から地域に貢献していきたいと考えています。その際にも、人と人とのつながりが地域を変えるきっかけとなっていくと思います。地域のために、誰かのために率先して動ける人間になりたいと思うきっかけとなりました。
- ・今回のまちづくりプロジェクトを通して、私は人と人との縁の大切さを学んだ。まちづくりというものは自分の町の活性化のためや、良さを多くの人たちに知ってもらいたいという信念をもとに行われているものである。だからこそ、同じ思いを持つ、普通に生活していただければ出会えなかったであろうさまざまな職業の人たちとの交流ができる。年齢が違えば考え方が違う。価値観が違う。人生経験が違う。そういった人たちとかわることで、まちづくりに関することだけでなく日常役に立つ情報も共有できる。お互いに得ることはとても多いだろう。どんな機会でも得たかわりでもつながり続けることが大切であると気づかされた。
- ・私は今回のプロジェクトを通して、ボランティアにかけられる思いや地域活性に関わっている人たちの気持ちの熱さというものを学びました。仕事をすればお金がもらえるという概念を捨て、ただ自分が育った地域を良くしたいという思いだけで活動している方々をみて、本当に熱い思いがないとこのような活動はできないと思いました。また、私も参加して働く、動くことというのはお金のための全ではないということを感じさせていただきました。また、大起水産の方ともお話をさせていただき、ビジネスとはどういうものか、またどのような人材が必要とされているのかということも学ばせていただきました。特に印象深いのが、「知識を持っていてもそれを利用する思考回路がないといけない」ということです。これから自分も社会へ出て行く上で知識をつけることはもちろん、たくさん経験をし

てその引き出しを増やし様々な場面で対応できる人材にならないといけないと思いました。

- ・私はこのプロジェクトを通して松山市三津浜の地域がいかほどに声を上げ、また行動力を持って地域活性化を期待しているかを改めて気づかされました。今回のプロジェクトは、私にとって二回目の三津浜焼きと関わる機会となりましたが、この度は三津浜焼きへの理解に加え、実際に調理するところから携わることができました。また、愛媛の方々と交流する中で、地域活性化の意志を後世に伝えていく大切さやその地域で働く人である「内側」と、その地域に所縁がない人々である「外側」の双方から当事者意識を持つことによってはじめて町おこしは意味を成すことにも気づかされました。

#### ■参加学生が今後の学生生活に活かしたいこと、課題

- ・学生生活はあと半年間となりましたが、改めて人とのかかわることの楽しさ、大切さを知ることができました。2月には、愛媛県で開催されるこなもんサミットのお手伝いに何うと約束したので、次回またお手伝いする機会を楽しみにしつつ、残された学生生活でたくさんの人と関わり、充実した学生生活を送りたいです。
- ・今後の学校生活では、今まで以上に人とのかかわりを大切にしたいと思っている。これまでも何かをする際は、できる限り出会う人と積極的にコミュニケーションをとろうとしていたが目的をもって話をしていただけではなかった。だからこそ、せっかくの縁がその場限りで終わってしまうことが多かった。しかし、今回のまちづくりプロジェクトを通して学んだように、人と人とはお互いに刺激し合うことで新たな価値観や考え方を得る。だからこそ、これから合う人たちとはそのときに必要なだけしかコミュニケーションをとらないのではなく、その活動が終わった後も友好的な関係を築けるようにしたいと思っている。
- ・今後はもっとこのようなプロジェクトに参加し、経験することが大事だと思いました。学校の中ではたくさんの学生と触れ合う機会が多いけれど、なかなか自分たちの考えをしっかりとった社会人にお会いする機会は自分から作らないとないので、積極的になんでも参加していこうと思います。自分の経験へとつながるプロジェクトを探すこと、また参加する勇気をつけることが課題です。また、今回参加させていただいたボランティアの方々のように、自分のためとではなく他の人のため、他のもののために行動することも大切だと思いました。自分のためだけに動いても人との繋がりは生まれなし、そうなるとう結局自分の世界を広げることができず、狭い世界しか知ることができないと感じたので、色々な人のために自ら動いて、人脈を広げていくことが今後の課題になると思います。
- ・この度のプロジェクトで、二つ今後の実生活に役立つ考え方を取得できました。一つ目は、数字を扱う際は「上から見ると0（ゼロ）だが、横から見れば一（イチ）に見えることがある」ということである。すなわち、数値的に物事を証明することは大事だが、それを鵜呑みにするのではなく更にその数値に疑いをかけ根幹となる問題点を探ることです。二つ目は、「引き出し」を多く持つこと、それも知識を引き出すための知恵を備えたうえで引き出しを増やすことです。知識だけ多く所持しても応用できない知識は必要ないということに気づかされました。これら二点は今後もしっかりと肝に銘じていきたいと思う。